

学位被授与者氏名	王 媛媛 (おう えんえん)
論文題目	中国人留学生の日本への異文化適応プロセスに関する研究 —複数経路・等至性モデル (TEM) 分析を通して—
論文審査結果の要旨	<p>本研究は、日本に留学経験のある中国人留学生へのインタビュー及び TEM 分析を通して、異文化適応プロセスの実際を捉えるとともに、必要とされる支援について検討した研究であった。</p> <p>第1章・第2章では、中国人留学生を取り巻く現状について、多様なデータを元に整理していた。留学生への支援については、行政の支援政策の変遷は丁寧に記されていたものの、留学生に身近な支援（行政に限らず民間での支援も含めて）は十分に網羅できたとは言いがたい。しかしながら、筆者なりに論点を結び付けながら、目的へと繋げることができていたと考える。</p> <p>第3章の TEM 分析については、本研究の目的に合致する魅力的な手法ではあったものの、インタビュー開始前の筆者自身の TEM 分析への理解が浅かったように思われる。もう少し TEM 分析における時系列の重要性や、社会的方向づけ・社会的ガイドの意義を理解した上で、もっと丁寧にインタビューをすることができていれば、結果として得られた TEM 図の精度も向上し、よりの確かな考察に繋げることができたのではないだろうか。</p> <p>第4章では、筆者は膨大なインタビューデータの整理を行い、TEM 分析のための細かい作業を真摯に遂行してきた。まずその姿勢は十分評価に値する。得られた異文化適応プロセスの大きな流れについては、ある意味では先行研究と重なる点も多く、オリジナリティに欠ける部分もあるのだが、5つの時期区分とそのラベリングには、筆者の当事者性も相まって、本研究のオリジナリティを示すことができたように思われる。</p> <p>TEM 図を踏まえての支援策については、その時期ごとに適した興味深い具体例も提示されていた。当然ではあるが、今回の研究は中国人留学生によるインタビューをもとに構成されており、あくまで中国人留学生の視点から描いたものという限界がある。今後は、支援者側の視点も取り入れながら、包括的かつ現実的な支援案を模索することが求められよう。本研究がその足掛かりとなればと期待する。</p> <p>2023年2月21日に、北九州市立大学北方キャンパス 本館 D-303 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>